おかげさまで
創刊 75
2018.1.1
日本食糧新聞

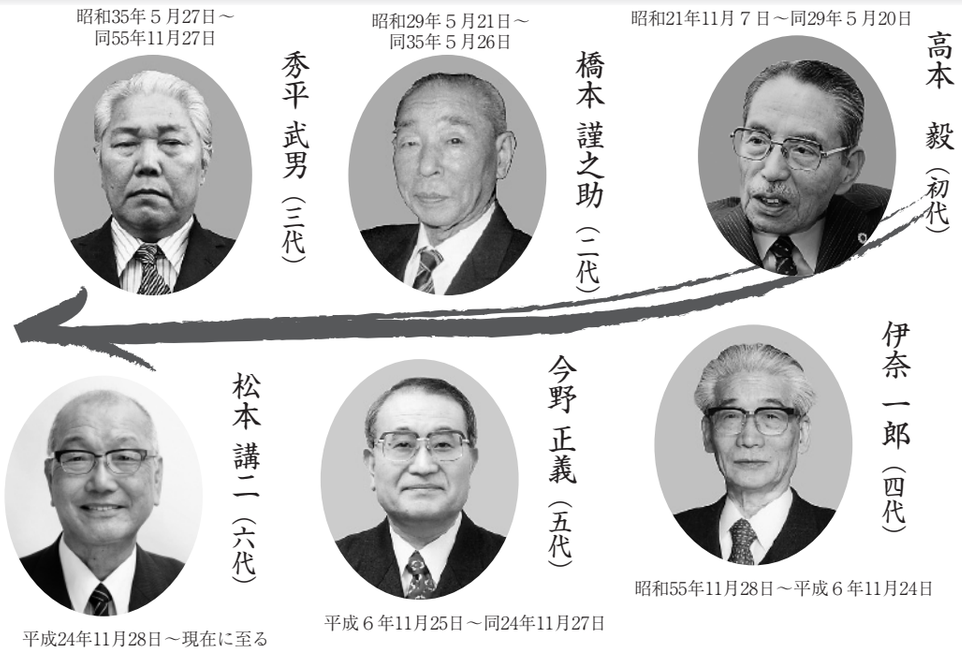
日本食糧新聞

創刊75年の歩み

Nissyoku

日本食糧新聞社

日本食糧新聞社　歴代社長（就任期間）



ごあいさつ

「読む・見る・使う情報紙」の新使命を貫く

「日本食糧新聞」は本年、おかげさまで創刊七五周年を迎えました。「紙齢」も専門紙では珍しい一万一〇〇〇号の大台を超え、食品産業、食品流通、食品関連機械・資材関連等食産業界の日々の変化や歴史を見つめ、並走しつつ「食の歩みを報道」して参りました。これもひとえに関連産業の多くの読者、企業様の変わらぬ厚いご支援のたまものと深く感謝いたします。

この七五年間、政治・経済、生活・価値観、情報、商品、技術の変遷と共に食品産業も価値観・仕組み・使命が想定外とも言える大きな変化、変遷を遂げました。当紙は一九四三年（昭和一八年）一月一日、当時の農林省の外郭団体中央食糧協力会の広報紙として産声をあげて以来、一貫して食品、流通、関連産業界の「提言紙・世論紙・応援紙」の役割を追求、報道して参りました。

日本食糧新聞が「紙齢七五年」を迎えることができたのを機会に改めて感謝と御礼を申し上げ、次代の新しいステージへ食品産業の一層の発展繁栄を報道する使命実現に向けた、新たな一歩を踏み出す決意といたしたく存じます。

未来の創刊一〇〇周年に向けまして、常に立ち止まらず、読者満足へメディアサービス機能の高度化・国際化に取り組み、長い経験を生かし「歴史は繰り返す部門と繰り返さない部門」とを常に発見しながら、未来への道づくりに邁進、欠かせぬ専門紙の役割をさらに高め充実して参る所存です。

昨今は、情報メディアの選択肢が多岐にわたり、その速度は想像を超える加速度で進みつつあります。当社はこれまでの「読んでいただく情報紙」から「見ていただく情報紙」、そして「使っていただく情報紙」へ。さらに「国際性」「社会性」のある情報提供ができるよう「紙面」「画面」「場面」など多岐にわたる情報報道のステージを拡大しています。いつでも、どこでも、どんな時でもご利用いただけるよう電子版の配信、展示会での新価値訴求など様々な場面を想定、未来に活きる価値づくりへ挑戦を致します。

目的に合わせて多彩なシナリオに沿うべく、可能な限り食品・流通産業の「新しいシナリオ」「社会的産業繁栄」の情報紙・応援紙の役割を果たし得るものであればと念じております。

今後とも変わらぬご支援、ご協力のほど、何とぞよろしくお願い申し上げます。

日本食糧新聞社
代表取締役会長ＣＥＯ　**今野正義**
代表取締役社長　**松本講二**

清涼飲料水物品税撤廃陳情

完全学校給食はじまる。楽しそうな子どもたち

日本食糧新聞社　題字の変遷

平成12年8月30日

昭和26年11月29日

昭和25年4月18日

昭和21年12月4日

昭和20年1月1日

昭和18年2月13日

昭和18年1月1日

Ⅰ　昭和17年～昭和27年（1942～1952）

昭和17年
中央食糧協力会弘報部が日本食糧新聞を制作／新聞統合がはじまる

昭和18年
昭和18年1月1日創刊／大判ペラで火・土の週2回発行／初めて広告掲載／弘報部、現在の八重洲口東京建物ビルに移転
火・木・土週3回発行へ／警視庁へ出頭事件

昭和19年
8月15日終戦・印刷所焼失／終戦・統制から開放／日本食糧新聞は中央食糧営団機関紙に

昭和20年
営団解散／機関紙から業界紙へ／㈱日本食糧新聞社設立、初代社長に高本毅就任

昭和21年
関西、中部の二支局開設／株式会社に組織変更の社告掲載／米不足でヤミ米はびこる

昭和22年
食糧年鑑創刊／広島支局を開設／再建日本の食料事情を記録／関門支局開設／購読料、1年間に3倍、すさまじいインフレ／東京食糧新聞と提携／日本経済まだ不安定／懸命に外資獲得へ

昭和23年
本紙、隔日発行へ、4ページ建て発行に／北海道支局、長野支局を開設／月刊「食糧の科学」を発行／統制撤廃で食料次々自由化へ／食糧庁発足

昭和24年
食品手帳、京浜版発行／朝鮮戦争で特需景気／統制色、急速に薄らぐ／食料品配給公団解散

昭和25年
中央食糧協力会弘報部が日本食糧新聞を制作／新聞統合がはじまる

昭和26年
昭和18年1月1日創刊／大判ペラで火・土の週2回発行／初めて広告掲載／弘報部、現在の八重洲口東京建物ビルに移転

昭和27年
火・木・土週3回発行へ／警視庁へ出頭事件

Ⅱ　昭和28年～昭和37年（1953～1962）

昭和28年
本紙創刊10周年／仙台支局開設／新時代の先端を切り開いた「月刊食品加工」発刊／日刊食糧通信を活版刷に／本紙週2回に／日刊食糧通信廃刊／本紙週3回発行に復元／テレビ放送はじまる／組合、協会など続々誕生／セルフサービス1号店紀ノ国屋オープン／人造米が話題に／エンリッチ製品も流行／銀座にネオン輝く

昭和29年
初の社長交代、高本毅から橋本謹之助へ／本紙、輸出立国と増産を強調／原爆まぐろ／死の灰の第5福竜丸／デフレ化の中元戦

昭和30年
5支局開設／静岡支局・横浜通信部開設／当時の編集部内・印刷所を読売新聞印刷部から日経印刷に切り替え／着々全国通信網拡大・整備・商況版が誕生／神武景気、東京国際見本市開く・ライカ対キヤノン景品競争／森永粉乳中毒事件

昭和31年
オール4ページ建て断行／前橋支局、千葉通信部、九州支局など通信網積極的整備、拡大／もはや戦後ではない／神武景気に続いて高天が原景気に／外国製品の攻勢強まる

昭和26年
本紙一〇〇〇号迎える／コラム「ゆらぐ紫煙」はじまる／初めての催物「コーヒー展」開かれる／九州支局開設／日刊食糧通信を発刊／平和条約調印／朝鮮動乱終局、不況へ／食糧配給公団／油糧砂糖配給公団解散

昭和27年
信越支局、青函通信部を開設／東京食糧新聞を廃刊／創刊以来の取材対象の変更、食糧から食品へ／好景気からデフレに／13年ぶり自由米が復活／統制解除で卸機能が復活

日本チェーンストア協会創立総会

「天皇杯」受賞を目指す全国漬物展示品評会が盛大に開催

米屋さんが食料品を家庭配達

ダイエー1号店／千林駅前店

Ⅲ

昭和38年～昭和47年（1963～1972）

昭和32年

本紙二〇〇〇号迎える／全国7ブロック総局制に移行／年初は神武景気、後半はなべ底不況／人工衛星打ち上げに成功／魚肉ソーセジがブーム

昭和33年

本紙創刊15周年／事業部を新設、部長に中島英之助／食料専門紙値上げへ／団地族誕生／岩戸景気はじまる／ビジネス特急「こだま号」運転開始／正田美智子さん皇太子妃に／雪印とグローバーが大型合併へ動く

昭和34年

自前の料理講習会はじまる（第一回）／広告、新規スポンサー台頭／皇太子ご成婚／岩戸景気、再び好況を謳歌／ご成婚、奉祝一色、華やかなパレード／貿易自由化の波／日清チキンラーメン発売

昭和35年

秀平武男社長就任／千葉支局開設／本紙、都内一部で即日配達制／当社初の海外視察ツアー実施／インスタント食品が伸びる／全国即席ラーメン協会発足へ／牛肉大和煮缶詰問題

昭和36年

本紙主催・缶詰と飲料まつり盛況／大阪支局で「食料品店ニュース」創刊／台湾に支局開設／本紙主催・即席ラーメンコンクール開催／輸入食品増加／コーラ自由化／所得倍増計画／70品目を自由化／陸へ上がった水産会社

昭和37年

創刊20周年記念祝賀会盛大に／第一回日食料理講習会開始／「食品産業20年の歩み」発行／紙面刷新8ページ建てへ／新年号で家計、消費安定感取り戻す／戦中、戦後の苦難越え／食品業界自由化とマスプロにおびえる／日本農林規格（JAS）協会設立／宇宙食、大阪国際見本市で実物展示

昭和38年

本紙創刊20周年／日刊紙化を模索／謄写印刷で日刊「日食速報」創刊／「食品工業版」スタート／流通革命とは何か！本社ゼミ開催／本紙購読料値上げ／企画調査室を新設／外資参入盛ん

昭和39年

本紙三〇〇〇号迎える／東京オリンピック特集／九州総局でも流通セミナー開催／「即席ラーメン」刊行／分室、神田佐久間町に移転／プラスチック壜生産開始へ／オリンピック東京大会協賛特集・別冊を発行／当社オリンピック基金に寄付

昭和40年

国民生活百景・1面下段コラム「仁王門」連載はじまる／市販食品研究会開催／昭和40年新年号別冊に「食品画報」発行／出版部・事業部が活躍／流通チャンネル大きく変化へ／見通しは引き続き不況／南極観測隊、食料開発に貢献／通産省がボランタリーチェーン育成策／マラヤパイン視察団、国賓並みの歓迎／食生活質的向上目立つ

昭和41年

総局制を廃止、支社制に／本社機構大改革／コンピュータ化の波押し寄せる／紙面刷新、最高の専門紙へ／中国で文化大革命、日本ではいざなぎ景気／新流通秩序に対応

昭和42年

第一回食品産業功労賞制定／「企業のめばえ」「味百年」相次ぎ創刊へ／「点睛」第一集が完成／公害問題が表面化／流通革命軌道に／日本チェーンストア協会設立

農林水産省発足

オイルショックの買い占め協奏曲。
スーパー開店と同時になだれむ客

セブン−イレブン1号店、東京・江東区豊洲にオープン

すかいらーく国立1号店オープン

マクドナルドハンバーガー、東京銀座四丁目（三越銀座店内）に第1号店オープン

Ⅳ

昭和48年〜昭和57年（1973〜1982）

昭和43年

本紙創刊25周年／営業年度を4月〜3月年一期に／札幌支局開設20年記念式典／大ヒットの「スーパー攻略法」／日食速報に写真・グラフ掲載で差別化／本社四局制に機構改革／公害国民的関心事に／ズルチン使用禁止

昭和44年

支局を合理的集約、東日本支社設置／日経印刷から機関紙印刷へ、一段14字を13字に／経営側と労組最悪な空気／「企業のめばえ」完成／「パッケージ戦略」発刊／印刷所変更で編成局なども移転／三年間で四支局閉鎖／本紙広告料金値上げ／橋本謹之助前社長が死去／東京支社を廃止、東日本支社新設／アポロ、月面に人類第1歩／チク口旋風

昭和45年

グローサーニューズ廃刊、本紙に吸収／米国へ冷凍食品視察団／グロサーニューズ版で本紙小売店版強化／EXPO'70日本万国博を記念「食品の進歩を調和」を発刊／フードライフを刷新、新装第一号出る／購読料値上げ／大阪で日本万国博／よど号ハイジャック事件／すかいらーく1号店オープン／ケンタッキー・フライドチキン上陸

昭和46年

本紙四〇〇〇号を迎える／仙台支局20周年、食品産業功労賞贈呈も／本紙主催第二回米国CVS視察団出発／「発展するコンビニエンスストア」発刊／「食品流通年報」創刊／視察団連載／出版など活発化／コンビニエンスストア関心高まる／ドル三六〇円時代終わり、変動制に／マクドナルド・ハンバーガー銀座に第1号店

昭和47年

本紙機関紙印刷から産報印刷に変更／ハワイに「日食ハワイの家」開設／創刊30周年記念祝賀式典、東京プリンスホテルで／「冷食産業」を創刊・本社機構を活発化／コンビニエンスストア時代の幕開け

昭和48年

本紙創刊30周年／労働争議で発刊遅れる／労働争議険悪に／アジア加工食品開発視察団／本紙縮刷版第一号刊行／オイルショック、狂乱物価の年／食品、続々値上げ／日本列島改造論、ブームに乗る

昭和49年

日本出版制作センター設立で印刷分野に進出／外食産業新聞を創刊／セブンーイレブン（CVS）一号店オープン／戦後初のマイナス成長／買い占め売り惜しみ防止法指定六品目に／「展望なき幕開け」を覚悟

昭和50年

「75地域食品産業の現況」発刊／世界最大のボランタリーチェーン首脳招きセミナー／ファミリーレストラン急増／ベトナム戦終結／新包装・レトルトパウチ正式認可

昭和51年

月刊誌「総合食品」発行／本紙一面コラム「宇宙船」連載開始／「目でみるコンビニエンスストア」発刊／「食品知識ミニブックス入門シリーズ」新書版で発行／ロッキード事件で田中前首相逮捕／ルートセール破綻

昭和52年

本紙五〇〇〇号迎える／第10回食品産業功労賞と創刊35周年記念式典／「食品卸・有力企業調査」発刊／「宇宙船」発刊／「月刊誌・総合食品」発刊／一條正氏死去／二〇〇カイリに揺れる／豆乳がブーム

昭和53年

本紙創刊35周年／円高で輸出品大打撃／成田空港開港／一ドル一八〇円に／まさに黒船襲来／農林省が農林水産省に改称

昭和54年

食品業界初の「日中友好食品参観団」を企画／「外食産業年報」を発刊／食品問屋激震、4社合併で「菱食」発足、国分、明治屋に次ぐ食品問屋に

スーパーマーケット失速現象が表面化。食料品売上ペースダウン。前年実績を割る月が続出。各社、低価格政策打ち出す

農・畜産物自由化の波。日本の残存輸入制限に対する「自由化勧告」がガット（関税貿易一般協定）総会で採択された

米輸入反対、要求米価実現など
全国農業者総決起大会開く

学校給食に米飯使用（東京都）が決まり、はじめてカレーが御目見得

全国スーパーマーケット協会設立

V 昭和58年～平成4年（1983～1992）

昭和55年
伊奈一郎新社長に就任／4月から大きく紙面刷新／イラン・イラク全面戦争／ダイエー、売上高1兆円を超える／資本金2対1の増資

昭和56年
広告無掲載出版物相次ぎ発刊／外食産業新聞を清算／福井教授にノーベル化学賞／日本チェーンストア協会が大店法に反対

昭和57年
創刊40周年迎える／コンピュータ部門独立、電算室を設置

昭和58年
本紙創刊40周年／本紙六〇〇〇号迎える／食品ヒット大賞を制定／経営者の集い発足／「日食新製品リサーチ」発刊／新製品研究会発足／FOOD LIFE（フードライフ）発行／「食品ビジネス用語」発刊／日食セミナー盛ん／東京ディズニーランドオープン／猪突猛進の年

昭和59年
21世紀食品経営者フォーラム発足／秀平武男会長辞任／全社FAX網完備／毒物混入事件／グリコ・森永脅迫事件発生／日本は世界一長寿国／国連、今後の食糧事情に暗雲／成熟社会にどう対応

昭和60年
食品広報研究会設立、食品ニューバイオテクノロジー研究会発足／高度情報化時代へ／日航機、御巣鷹山中に墜落、大惨事に／ワイン・ウーロン茶ブーム

昭和61年
「食品経営者情報」週刊発行に、月曜の朝、手元に／月刊誌「ファインライブ」創刊／日食バイオ要約情報発刊／新企画推進室を設置／本部事務所を機関紙印刷所有ビルに移転／本紙、15字詰めを13字詰めに、組み版はコンピュータ化／飽食を豊食に表現／首都圏日食㈱設立／日食企画㈱設立／チェルノブイリ原発大爆発

昭和62年
新聞記事データ保存開始／西日本食品界の集い盛大に開く／食品バイオ開発賞を制定／「日食フォーラム文庫」を刊行／工業化社会から情報化社会へ

昭和63年
本紙創刊45周年／新製品開発賞制定／ニッショク映像㈱設立で映像メディアに進出／海外投資が盛んに／ソウル五輪開催

平成元年
4年9ヵ月ぶりに本紙値上げへ／西日本・21世紀日食フォーラム発足／本紙月・水・金発行へ／英文版・タウン版新設／ワシントン駐在員事務所開設／中日本・21世紀日食フォーラム発足／昭和天皇崩御、昭和から平成へ／バブル崩壊

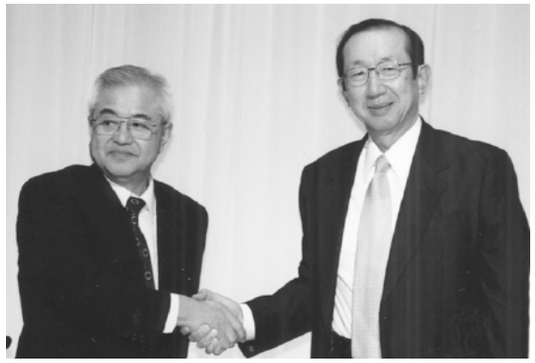
平成2年
本紙七〇〇〇号迎える／日食環境資源協力賞を制定／昭和の食品産業史発行／日食フォーラム全国網へ（東京・大阪・中日本）／本部事務所を移転（東京・御成門）／高本初代社長死去／バブル崩壊、天皇即位の礼

平成3年
一面コラム「仁王門」が幕を閉じ、「胃心伝真」が新コラムに／牛肉・オレンジ自由化／湾岸戦争はじまる／ガンジー元インド首相暗殺／日本セブンーイレブン、米・本社再建へ

平成4年
外食レストラン新聞創刊／第1回日食・環境資源協力賞式典開催／本紙、〝今年度購読料値上げしません〟／北海道・21世紀日食フォーラム発足／21世紀外食レストラン研究会発足／FD提稿スタート／大店法施行、競争激化／環境問題が話題に

第１回焼肉ビジネスフェアを東京で開催

キッコーマン、アメリカ進出50周年を迎える



日清食品と明星食品が資本業務提携

日本食糧新聞 The Japan Food Journal

ファベックス2003

日本食糧新聞 The Japan Food Journal 2003年

過去最大規模4万2000人来場

特徴生かした積極型提案企画

食品・食材ゾーン

安全・安心・健康をキーワードに取組み

こだわりの技術誇示

和食惣菜デリカ提案も

盛況 主催者特別セミナー

流行るお店・売れるお店 売れる惣菜の条件とは？

はなまるうどんの成功を語る

もうかる惣菜をつくる裏技

食の安全・安心を核に

環境関連機器など展示

機械・厨房・衛生・資材ゾーン

惣菜分野を強化す

本紙平成15年5月7日号

Ⅵ 平成5年～平成15年（1993～2003）

平成5年
本紙創刊50周年／盛大に50周年式典挙行／食品環境対策フォーラム発足／三代目社長秀平武男氏死去／日食広告社㈱を設立

平成6年
伊奈一郎会長、今野正義社長体制に

平成7年
戦後50年食品産業貢献賞を制定／記事データベースサービス本格開始／「百歳元気新聞」創刊へ／阪神・淡路大震災／地下鉄サリン事件起きる

平成8年
本紙八〇〇〇号迎える／ホームページ開設／田中康男氏（元副社長）死去／「O―157」食品界に波紋広がる

平成9年
業務用加工食品ヒット賞新設／記事データサービス本格化、さらに強化されるIT化／月刊「食品工場長」を創刊／仙台支局が事務所移転／山一證券破綻、金融危機の序奏

平成10年
本紙創刊55周年／展示会事業「FABEX」盛大に開催／週刊「日食情報」を月刊に／金融緊急非常事態への対応実施／日食優秀食品機械資材賞を制定／21世紀食品産業振興議員連盟を結成へ／橋本内閣退陣、後継に小渕氏になど政界激変

平成11年
21世紀食品産業文化振興会発足、セミナーで大反響／新聞DTP制作開始／日本食糧新聞インターネット版サービス開始／トルコ、台湾相次ぐ大地震／Y2Kで非常食売れる（水、缶詰）

Ⅶ 平成16年～平成25年（2004～2012）

平成12年
食品産業発展賞を制定、記念出版物発刊／全記者パソコン原稿提稿へ／沖縄サミット開幕／揺らぐ食品への信頼、食中毒で業界混乱

平成13年
全社員一人一台パソコン導入／本部事務所移転／編集本部に先端取材局新設／米国で同時多発テロ／小泉内閣スタート／狂牛病（BSE）の激震続く

平成14年
本紙九〇〇〇号迎える／伊奈一郎名誉会長、今野正義社長体制に／編集サーバ稼働／IT化新聞づくり促進／食肉偽装事件が起き、雪印食品解散

平成15年
本紙創刊60周年／紙齢還暦「創刊満60周年記念式典」／食品産業文化振興会再発足／蓄積10年分の日本食糧新聞、外食レストラン新聞、百歳元気新聞の全記事一五万件をウェブ上で検索サービス（食サーチ）開始

平成16年
創刊当時からの新聞のPDF化に着手／国内で鳥インフルエンザ発生／第3のビール大ヒット／消費税総額表示開始／新潟中越地震、地域食品産業にも多大な被害

平成17年
食サイトウォッチ運用開始／食育基本法成立／イトーヨーカ堂持ち株会社の傘下に／ダイエー創業者中内功氏死去／米、加産牛肉の輸入再開／個人情報保護法施行

平成18年
北海道、仙台、広島各支局を北海道支社、東北支局、中国支局に変更／残留農薬などのポジティブリスト制度化／食品業界で

和食のユネスコ登録で海外活性化に期待がかかる

インテックス大阪にて「ファベックス関西」初開催

熊本県のシンボルである熊本城も被害に遭った

国民生活産業・消費者団体連合会を設立

東日本大震災で甚大な被害を受ける　横倒しになった船／イオン石巻店に避難する人々

Ⅷ 平成26年～平成30年（2014～2018）

平成28年

本紙1100号迎える／コンビニで新聞プリントサービスを開始／「日本食糧新聞」創刊以来72年分の電子新聞DVD化実現／消費税8%に、直撃『円安・消費増税』／新しい介護食品「スマイルケア食」誕生／飲食料品、化粧品、薬も免税対象に

一般社団法人「ASEAN食産業人材育成協会」発足／ネット事業開発本部新設／「焼肉新聞」発刊／「介護食品（スマイルケア食）」コンクール実施／ミラノ国際博覧会へ視察団派遣／機能性表示食品制度スタート

動画配信AR（拡張現実）を導入／国際事業部新設／日食外食レストラン新聞25周年／「業務用加工食品ヒット賞」20周年／期待高まるインバウンド、アウトバウンド／マイナンバー制度運用開始／保活（保育園入園）問題／熊本地震発生／電力小売自由化／食品企業・流通の国際化加速

平成27年

本紙創刊70周年／本紙創刊70周年を記念し「地域食品産業貢献賞」制定／第一回「ファベックス関西」開催／「日本食糧新聞＋電子版」セット購読開始／日本食糧新聞電子版ユーザー一万人突破／東日本大震災復興財源確保のため復興税導入／政府TPP参加表明／『和食』がユネスコ無形文化遺産に登録

平成26年

門サンプルサイト「食のHAPPYキャンペーン」を開設／本紙創刊70周年記念式典「感謝の集い」開催

平成25年

ユニバーサルデザインの標準化進む／日清食品と明星食品が資本業務提携・マルハとニチロが経営統合合意

日食携帯メール速報配信サービススタート、携帯サイト開設／日食広告社㈱解散／日本アクセスと西野商事合併／キッコーマン米進出50周年／原油急騰1バレル＝77・03ドルで史上最高値更新／ウォルマート、西友を完全子会社化へ

本紙創刊65周年／本紙10000号迎える／「発行重ねて10000号・創刊65周年記念感謝の集い」を東京で開催各界代表約500名参集／21世紀食品経営者フォーラム250回記念式典／焼酎、ワイン、乳製品、大豆関連商品など原料高で相次いで値上げ／サントリー純粋持株会社へ／山崎製パン、不二家を連結子会社化

第一回焼肉ビジネスフェア開催／ケルンメッセと提携で「第一回ワイン&グルメジャパン」がファベックスと同時開催／食品産業文化振興会10周年／明治乳業と明治製菓が経営統合／新日本スーパーマーケット協会設立

食品産業功労賞顕彰500人記念感謝の集い開催／第29回食品ヒット大賞史上初の大賞3商品受賞／「買い物難民」官民が対策に本腰

東日本大震災の影響でファベックスを6月に延期／食品技術者養成学校開校／3月11日東日本大震災発生、食品業界にも甚大な被害／三菱系食品卸4社統合で三菱食品誕生／「国民生活産業・消費者団体連合会」設立

「食品ヒット大賞」30回・「新技術・食品開発賞」25回の節目迎える／「日本食糧新聞電子版」の配信開始／ヒット食品☆スタジアム開催／グループ会社、日本出版制作センターが食品専

『食』を文化に！　　写真：服部学園

平成29年

一般消費者向け食べ方情報サイト「たべぷろ」オープン／「ファベックス」開催20周年／静岡支局を名古屋支社内に移管／新潟支局を開設／新潟・関東支社を北関東支社に改称／「食品産業功労賞」50回記念・本紙創刊75周年記念式典開催／ファイブ・ア・ディ協会の事務局業務を受託／「食文化」を明記「文化芸術基本法」に改称

本紙創刊75周年／第一回「フードストアソリューションズ」開催

平成30年

日食インターネット版サービス（現・日本食糧新聞電子版）開始20周年

本紙一二〇〇〇号迎える／東京オリンピック・パラリンピック開催

平成31年

平成32年

● 日本食糧新聞社ネットワーク ●

◆本　　社　〒103-0028 東京都中央区八重洲1-9-9東京建物ビル5F
TEL：03-3271-4815　FAX：03-3271-4818

◆本　　部　〒105-0003 東京都港区西新橋2-21-2 第1南桜ビル5F、7F
TEL：03-3432-5700（代表）　FAX：03-3432-4888

◆制 作 本 部　〒135-0053 東京都江東区辰巳2-8-21㈱きかんし4F
TEL：03-5569-7711　FAX：03-5569-7712

◆出 版 本 部　〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-5 北沢ビル4F
TEL：03-3288-2177　FAX：03-5210-7718

◆北海道支社　〒003-0023 札幌市白石区南郷通8-北1-3 STメモリアルビル301
TEL：011-866-0721　FAX：011-866-0720

◆東 北 支 局　〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-7-7 上杉ハイツ2F
TEL：022-225-2721　FAX：022-265-0536

◆北関東支社　〒105-0003 東京都港区西新橋2-21-2 第1南桜ビル5F
TEL：03-3432-3103　FAX：03-3432-4888

◆新 潟 支 局　〒950-0086 新潟県新潟市中央区花園2-1-16 三和ビル306
TEL：025-240-8810　FAX：025-246-5577

◆長 野 支 局　〒380-0826 長野市北石堂町1182ベイユビル402
TEL：026-228-5520　FAX：026-228-5625

◆静 岡 支 局　〒451-0044 名古屋市西区菊井2-2-20 江西公園ビル（中部支社内）
TEL：052-571-7318　FAX：052-571-7319

◆中 部 支 社　〒451-0044 名古屋市西区菊井2-2-20 江西公園ビル
TEL：052-571-7318　FAX：052-571-7319

◆関 西 支 社　〒530-0047 大阪市北区西天満5-2-18 三共ビル東館10F
TEL：06-6314-4181　FAX：06-6367-8650

◆中 国 支 局　〒730-0015 広島市中区橋本町5-7 第一京橋ビル
TEL：082-223-2535　FAX：082-223-1866

◆九 州 支 局　〒812-0023 福岡市博多区奈良屋町1-1ヤシマ博多ビル10F
TEL：092-291-1790　FAX：092-281-2170

● 関　連　会　社 ●

◇㈱日本出版制作センター
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-5　北沢ビル4F
TEL：03-3234-6901　FAX：03-5210-7718

◇ニッショク映像㈱
〒105-0003 東京都港区西新橋2-21-2第１南桜ビル5F（日本食糧新聞社内）
TEL：03-3432-3103　FAX：03-3432-4888